

新市立伊勢総合病院建設基本計画(案)について

パブリック・コメント(意見公募)の結果

1 パブリック・コメント実施の概要

(1) 募集方法

新市立伊勢総合病院建設基本計画（案）の説明会を開催するとともに、計画（案）の病院ホームページへの掲載及び下記の場所での閲覧により、市民からの意見公募を行った。なお、意見公募に当たっては、広報いせへの折込チラシ、伊勢市行政チャンネルお知らせ番組・文字放送、報道機関への情報提供による案内を行った。

【閲覧場所】

伊勢総合病院（総合案内）、伊勢市役所（総務課・市民ホール）

二見、小俣、御薗の各総合支所

神社、大湊、浜郷、宮本、豊浜、北浜、城田、四郷、沼木の各支所

伊勢図書館、小俣図書館

生涯学習センターいせトピア、二見生涯学習センター、いせ市民活動センター

(2) 意見提出の対象者

伊勢市内に在住、在勤、在学している者等

(3) 実施期間

平成25年2月1日（金）～2月28日（木）

(4) パブリック・コメントの結果

①意見募集の結果

意見者数 76名（意見箱 62名、郵送4名、FAX 5名、メール5名）

[意見数 22件]

②説明会の結果

平成25年2月17日（日）	生涯学習センターいせトピア	
	参加者 38名	意見者数 9名 [意見数 10件]
平成25年2月18日（月）	ハートプラザみその	
	参加者 20名	意見者数 4名 [意見数 4件]
平成25年2月19日（火）	二見公民館	
	参加者 27名	意見者数 3名 [意見数 3件]
平成25年2月20日（水）	小俣図書館	
	参加者 18名	意見者数 4名 [意見数 4件]

2 パブリック・コメントの結果を受けての修正内容

新市立伊勢総合病院建設基本計画（案）について、今回のパブリック・コメントを受けて、修正が必要となる箇所はありません。

3 意見募集での意見の概要と市の考え方

意見者数 76 名（意見箱 62 名、郵送 4 名、FAX 5 名、メール 5 名） [意見数 22 件]

No	主な意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>◆脳神経外科の再開 「急性期～回復期の脳神経系疾患へ内科・外科の両面から診療を行う」とありますが、私の家族は以前、脳梗塞で三週間入院し、その後、他病院へ転院しました。以後、一ヶ月に一度通院治療を受けていますが病状は一向に回復しないので、脳神経外科の充実した再開を心よりお待ちしております。</p>	<p>新病院では、将来の脳神経系疾患の増加に対応するために、脳神経外科領域の救急受入対応など急性期入院機能の再開を計画しております。現在の神経内科機能とともに、充実した診療体制整備に努めてまいります。</p> <p>また、本年9月より30床、新病院で40床の回復期リハビリテーション病棟を整備し、回復期のリハビリテーション機能を確保していきます。</p>
2	<p>◆医療ソーシャルワーカー専用室の設置 静岡県立静岡がんセンターでは、正面玄関脇に専門カウンターを設け、対面、電話で医療ソーシャルワーカー、看護師が対応し、「患者及び家族が安心して相談できる支援センター」を開設しています。「地域の人が気軽に相談できる支援センター」を新設されたらよいと思います。</p>	<p>医療ソーシャルワーカー専用室の設置については、新病院において、「患者支援センター」の整備を計画しております。</p> <p>当患者支援センターが患者や家族、地域の方々が気楽に、また、親身に相談を受けられる支援センターとなりますよう、体制整備に努めてまいります。</p>
3	<p>◆2月17日の説明会に参加させて頂きましたが、医療内容（病床数以外）については、建物が新しいか否かは関係ないと思いました。 「人間性豊かな市民病院」は、いかなる時でも考えなくてはいけないことだと思います。</p>	<p>病院の新築に関わらず、地域に必要な医療を確保していくことは、市民病院として必要であると考えております。</p> <p>また、病院職員一人一人が意識向上を図り、「人間性豊かな市民病院」としていくよう努めてまいります。</p>
4	<p>◆伊勢市には総合病院が伊勢赤十字病院と伊勢総合病院だけなので、医療や設備などが一新され、利用者が増えれば良いと思います。</p>	<p>新病院では、新たな機能として回復期リハビリ病棟や緩和ケア病棟を開設し、医療機器等も新しく整備します。市民の皆さまの健康と命を守り地域医療の確立に貢献したいと考えております。</p>
5	<p>◆現地隣接地へ建設する場合の交通機関の整備 ◇車のない方でも通院又はお見舞い等できるようにしていただきたい。 ◇現地は駅からも遠くバスの本数も少ない。 ◇緊急車両等の交通網についても検討いただきたい。</p>	<p>現在地は近鉄五十鈴川駅から徒歩約10分、バスは三重交通9路線、おかげバス2路線があり、公共交通については利便性が良い状況と考えていますが、さらに充実していくよう検討課題といたします。</p> <p>また、国道23号、主要地方道鳥羽松阪線（御幸道路）及び伊勢二見鳥羽ラインが隣接しており幹線道路のネットワークが充実していますので緊急車両の交通網については問題がないと考えております。</p>

6	<p>◆病院周辺施設の充実（活性化）</p> <p>待ち時間が長い時に、他の病気に感染しないよう、外出できれば助かる。</p>	<p>病院周辺施設の充実につきましては、病院として検討を行うことは難しいと考えておりますが、予約制を基本とした外来の待ち時間の短縮や診察室、検査室、処置室等の効率的な配置による診察、検査時間の短縮を目指していきます。</p> <p>また、院内にレストランやコンビニエンスストア等を配置するほか、屋外でくつろいでいただけるスペースについて検討していきます。</p>
7	<p>◆子供のプレイルーム</p> <p>親子がリラックスして入院及び治療を受けられるようにしてほしい。</p>	<p>新病院では、小児科外来エリアにプレイルームの設置を計画しております。病棟への設置につきましては、今後、検討していきます。</p>
8	<p>◆リハビリ施設や相談窓口等</p> <p>市民病院として患者や家族の立場になつた思いやりのある病院にしてほしい。</p>	<p>本年9月から回復期リハビリテーション病棟30床を設置し、新病院開院時からは40床設置します。</p> <p>また、新病院では相談窓口として「患者支援センター」の整備を計画しております。</p>
9	<p>◆新病院建設後、残る敷地の使途の案はありますか。</p>	<p>現在の建物を取り壊した後の敷地は、駐車場や屋外のリハビリスペース等へ有効活用を考えております。</p>
10	<p>◆健診センターは新病院の中に入りますか。</p>	<p>新病院では、健診センターを病院内に配置することにより、効率的な運営を行ってまいります。</p>
11	<p>◆相談しやすい総合診療を推進すべきである。</p>	<p>当院は専門分野に分かれていますが、診療科間の垣根が低く、患者にとっては気軽に相談しやすい体制です。</p> <p>専門分野にとらわれず、幅広い領域での診療を行う総合診療科の必要性については認識しており、三重大学へ医師の派遣要望を出すなど検討しております。</p>
12	<p>◆少なくとも病床数は322床を維持すべきではないでしょうか。一般病床220床で賄えるのでしょうか。</p>	<p>新病院での病床数は300床で、病床利用率を87.7%と想定しています。一般病床220床については、現時点の入院患者数を基に、将来の患者数予測において入院患者数が最大となる時点においても対応可能な病床数として設定しております。また、一般病床の他に回復期リハビリテーション病床、療養病床、緩和ケア病床といった、それぞれの機能に特化した病床を設置することで、一般病床を現在よりも急性期医療に特化した対応が行えるよう計画しております。これらにより、救急医療体制充実による夜間等</p>

		緊急入院への需要に対応することを考えております。
13	◆診察室と中待合との遮音は十分配慮してほしいと思います。	新病院では、患者のプライバシー保護に配慮した待合室の配置といたします。そのため、原則として中待合の設置は考えておりません。 また、診察室につきましても、遮音等に考慮し、プライバシーに配慮した構造を考えてまいります。
14	◆患者呼び出しシステムの工夫をお願いします。	外来での待合から診察室への誘導方法は、診察室前に番号表示盤等を設置することにより、氏名を呼ばなくともよいシステム等を採用したいと考えております。
15	◆電子カルテの導入は、十分な準備期間が必要です。	医療情報システム（電子カルテ等）の構築には、十分な準備期間が必要であると考えております。システムを統括するスタッフの配置も含め、十分な準備期間を取り、今後、検討してまいります。
16	◆病棟の病室の名前の表示形式について工夫してください。	ユニバーサルデザインを採用し、それぞれの患者の立場に立って、分かりやすさ、プライバシーへの配慮をしていきます。
17	◆太陽光発電パネルの導入が必要だと思います。	建設整備方針として、周辺環境や地球環境に配慮した建物の整備を掲げております。 省エネルギー化を推進するとともに、病院経営上の負担軽減を目指してまいります。
18	◆接遇や言葉使いなど患者・患者家族に優しいスタッフで、よりよい病院にしてほしい。	現在も全職員を対象に接遇研修を実施しておりますが、さらに来院していただく患者や家族にとって優しく、親しみを持っていただける「人間性豊かな市民病院」を目指し、職員の意識向上を図ってまいります。
19	◆伊勢市は「健康文化都市の宣言」をしているが、単に健康寿命の延伸だけでなく、最後の看取りまでも視野に入れた、総合的な「地域包括ケア」を保健・医療・介護・福祉を結びつけて実施すべき。市立病院の機能を伊勢市全域の地域包括ケアの柱に据え直してほしい。	高齢者の方が増える中、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムを市として、今後、推進していく考えでございます。 高齢者への対応は、生活習慣病対策を推進していく上で重要課題となっています。当院は行政、伊勢地区医師会、関連施設との連携を基軸に市民病院としての役割を担ってまいります。
20	◆経営改善と建設計画 ◇赤字が続いている状況で、今後も病院が必要なのか。 ◇医師不足の対策や方針が不明瞭である。	地域医療を守るため、伊勢赤十字病院とともに急性期医療を担い、また、地域に不足している回復期リハビリや緩和ケアなどの医療分野を補完し、切れ目のない医療を提供していくこと

	<p>◆職員給与比率が高く能力に応じた給与体系にする必要がある。</p> <p>◆経営改善が出来てから新病院の建設を計画してはどうか。</p>	<p>は、今後も必要であると考えております。</p> <p>医師確保対策としては、医師奨学金制度や評価に応じて手当を支給する医師人事評価制度を導入し、三重大学と連携強化を図っているところです。</p> <p>また、現在の経営状況は、非常に厳しく、経営の建て直しは喫緊の課題であり、経営企画室を設置し組織強化を図るとともに、経営コンサルタントの支援も受け、収入の増加や経費の削減等に取り組んでおります。</p> <p>現病院は耐震基準を満たしていないことから、今後、新病院建設を進めていくことになりますが、同時に経営改善にさらに積極的に取組み、市民の皆様から信頼の得られる病院を目指してまいります。</p>
21	<p>◆新病院建設地を伊勢市駅前とする意見</p> <p style="text-align: right;">意見者数 70 名</p> <p>[理由]</p> <p>◇伊勢市駅前再開発の解決</p> <p>◇中心市街地が住みやすく、人が集まりやすいようなまちづくりが必要</p> <p>◇交通の利便性が良い</p> <p>◇高齢化問題の解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の充実 (JR、近鉄、三交バス) ・ドーナツ化現象による買物難民化への懸念 <p>◇周辺商店街の活性化</p> <p>◇核、ランドマークとしての機能への期待</p> <p>◇中心市街地活性化の課題は「医・食・住」</p> <p>◇現病院隣接地に建設することに対する行政の思惑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見の噴出からの逃避 ・旧市外住民（小俣、二見、御薙）の方々への遠慮 <p>◇現病院隣接地に建設することに対する懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軟弱地盤に建設することに対する懸念 ・大雨時の滯水による周辺の交通障害に対する懸念 ・赤字を出している場所に建設することに対する懸念 	<p>新市立伊勢総合病院の建設地の選定にあたっては、いくつかの候補地を抽出し、自然災害等に対する土地の安全性、公共交通機関や自動車交通アクセス等の利便性、土地の広さや療養環境等の土地の状況、土地の確保見込みや排水対策等の基盤整備等の実現性、経済性等の視点から、比較検討を行い、段階的に絞込みを進めました。</p> <p>また、土地の選定を進めるにあたっては、7回にわたり市議会教育民生委員会でご協議いただきとともに、病院事業に詳しい外部委員の方々で構成されます新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会でご意見をいただきながら比較検討を行ってきました。</p> <p>今回、伊勢市駅前が適地ではないかのご意見をいただきましたが、伊勢市駅前につきましては、自動車交通、公共交通とも利便性が良く、中心市街地活性化に向けての大きな起爆剤になることが期待されるという面があります。しかしながら、一方で、敷地面積が 5,000 m²程度で土地の高度利用となり、建築計画の柔軟性に制約があるとともに、将来的な施設拡張についても余裕がなく、また、非常時の傷病者の受入スペースを取りにくくという面があります。</p> <p>また、市議会教育民生委員会として、医療環境の観点等から伊勢市駅前の三交百貨店・ジョ</p>

	<p>◇身近に病院があればという各地域の思いを考えれば伊勢市駅前が平等である</p> <p>◇どの方面からも通院時間の短縮ができる</p> <p>◇土地に不慣れなものでもスムーズに来院できる</p> <p>◇三重県内外に伊勢市をPRすることに繋がり、華やかさがないといわれる現状を打破できる</p> <p>◇長期的な視点でのまちなか活性化戦略こそ重要</p> <p>◇車両交通総量の減少、環境負荷の軽減等</p>	<p>イシティ跡及びその周辺は候補地から除外すべきとの意見がまとめられ、新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会のご意見も、医療の観点から、五十鈴川駅周辺、倉田山公園周辺が建設候補地に適していると考えられるというご意見をいただいております。</p> <p>現在の病院敷地拡張につきましては、軟弱地盤対策が必要ですが、十分な敷地を確保することができます。周辺は幹線道路のネットワークが充実しており、自動車交通や救急車の運行には問題が無く、鉄道やバス路線の公共交通も利便性がよい状況です。また、自然災害ハザードマップでの浸水予測も問題がなく、医療環境も優れています。</p> <p>どの候補地についても、課題がございますが、市議会教育民生委員会、新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会のご意見も踏まえつつ、総合的に判断した結果、交通の利便性も良く、十分な敷地を確保でき、医療環境に適している現病院の敷地を拡張して新病院を建設していくこととします。</p> <p>なお、現地での建替えは軟弱地盤対策が必要となります、土質の調査と解析を行い、適切な工法を検討して対策を行なっていきます。</p> <p>また、中心市街地活性化や高齢化が進展する中での安全、安心、健康なまちづくりも市の重要な課題と捉えており、市全体として今後も取り組んでいきたいと考えています。</p>
22	◆被災者を受け入れる施設が軟弱地盤の中にあっては機能を発揮できないのではないか。	

4 説明会での主な意見の概要と市の考え方

生涯学習センターいせトピア

平成 25 年 2 月 17 日（日） 参加者 38 名 意見者数 9 名 [意見数 10 件]

No	主な意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>◆患者への接し方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者があつて市民病院が成り立つので、患者に対する接し方に気をつけてほしい。 	<p>患者に対する職員の対応が重要という指摘を以前より受けています。現在、現場からの意見に対する改善案を検討し、実行しています。それを踏まえて、「人間性豊かな市民病院」を実現したいと考えています。</p>
2	<p>◆現病院隣接地への建設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軟弱地盤の問題がネックになる。 ・楠部町一体はかつて沼地であり、その場所に建てるのは問題である。 ・経営の問題より先に軟弱地盤対策を発表するべきである。 	<p>現病院は杭で支えられており、建物自体は沈下していません。周辺については現病院の建設当時に軟弱地盤対策の工法を取り入れていなかったため、地盤沈下が起きているのが現状です。</p> <p>新病院の建物に関しては基礎まで杭を打てば沈下を防げます。また、新病院では免震構造を採用します。免震構造では、現在の田より低い場所で基礎を造るため、田へ荷重がかからないことになります。</p> <p>軟弱地盤対策は、軟弱地盤を圧密により地盤沈下を促進する方法が考えられます。強制的に水を排出し、地盤沈下を早める方法です。今後、適切かつ経済的な工法を地質調査による結果を受けて解析し、検討していきます。</p>
3	<p>◆伊勢市駅前への建設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三交百貨店を撤去するタイミングと市民病院を建てるタイミングが合致している。 ・伊勢市の核となる場所へ建設してほしい。 ・官が主導してまちづくりを発展させることが重要である。 ・中心市街地の活性化という付録がつく。 ・駅前には十分な駐車場がある。 ・軟弱地盤対策の費用を使わなくてすむ。伊勢市駅前に比べ現在地への建設は 20 億円程度多く必要ではないか。 ・市内に開業医が多くあるため、市民病院には産婦人科、小児科、耳鼻いんこう科等は不要ではないか。今の市民病院は 6 割程度の利用患者しかいないのでスペースがもったいない。 	<p>伊勢市駅前については、病院建設と駅前活性化の 2 課題を解決できるとの考えがあります。また、交通の利便性が高いと認識しています。</p> <p>しかし、敷地面積が 5,000 m² 程度であることから、建築計画の柔軟性が低いことや、非常時の傷病者の受入スペースを取りにくい状況となることが想定されます。</p> <p>また、現在地と伊勢市駅前の建設費を比較しますと差は約 4 億円程度と予測しています。</p> <p>市議会教育民生委員会でも、伊勢市駅前周辺を候補地から外す意見を頂きました。策定委員会でも五十鈴川駅周辺か、倉田山公園周辺が良いとの意見を頂きました。これらの意見を総合的に勘案し、現在地の敷地を拡張して新病院を建てることを、市として候補地選定しました。</p> <p>なお、病院建設は大部分が病棟であり、適正規模の入院スペースを確保すべきであると考えております。</p>

4	<p>◆建設候補地選定の情報提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設候補地の費用比較と選定までの経緯をホームページでわかるようにしてほしい。 	建設地選定の経過につきましては、新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会の資料等を伊勢総合病院のホームページに掲載しております。
5	<p>◆伊勢赤十字病院との役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢赤十字病院なく伊勢病院にあるものを市民が理解できるように広報してほしい。 	伊勢赤十字病院との役割分担は、一つは回復期リハビリ病棟が挙げられます。また救急について、伊勢赤十字病院は救命救急センターを持っているので、3次救急は伊勢赤十字病院に担って頂いております。伊勢赤十字病院との救急輪番体制が現状では5対1となっていますが、これは医師不足が影響しています。伊勢総合病院が2次救急の役割を果たすことで、伊勢赤十字病院の機能が活かされると考えていますので医師確保に取り組みながら医療体制の充実を図ってまいります。
6	<p>◆災害時の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療患者の受け入れはどのように想定しているか。 	大規模災害時に、現状では拠点的な機能が発揮できない状況にありますが、関係機関と協議しながら、今後、地域防災計画に基づき検討していきたいと考えております。
7	<p>◆耳の不自由な方へのフォローについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示板や機器の設置を行ってほしい。 	外来待合時に名前でお呼びするのではなく、番号表示盤などを採用し、現在より便利で不自由のない病院となるように考えています。
8	<p>◆緩和ケア・健診の重要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人に1人が癌になる時代であり、緩和ケアや健診は重要である。新病院でなく今から進めさせていただきたい。 	現在も「がんサポートチーム」が一般病棟の入院患者や外来患者に対して緩和ケアを行っております。また、健診や人間ドックにも力を入れております。 新病院では、緩和ケア病棟を整備し、健診や人間ドック機能を更に拡充していきます。
9	<p>◆新病院完成後は、既存建物はどうなるのか。</p>	現在の建物は耐震基準を満たしておらず、老朽化しているため、取り壊す予定です。その後、駐車場や屋外のリハビリスペース等へ有効活用を考えています。
10	<p>◆近隣との汚水処理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑ヶ丘団地、レストラン、伊勢病院の3者で構成する汚水処理組合への対応はどうなるのか。 	病院も汚水処理組合の1員として、処理場の維持管理を担っています。新病院の汚水処理は現時点で決まっていないため、今後、設計を進める中で協議をさせていただきたいと考えております。

ハートプラザみその

平成 25 年 2 月 18 日（月）

参加者 20 名 意見者数 4 名 [意見数 4 件]

No	主な意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>◆病院経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他病院に対抗するような病院経営の方針になっていないか。 ・病床数を絞っているが、経営のことを考えていないのか。 ・人件費比率の目標設定として 50%を必ず切る姿勢があるのか。 ・人件費比率 45%を目標に経営を行ってほしい。 ・昭和 54 年度からの財務状況は赤字が多く、借金が返せない状況にあり、繰入金も多いので、今後は気をつけていただきたい。 ・新病院における病床利用率の目標を達成できるよう努力してほしい。 ・毎年 5 ~ 6 億円の赤字を出す体質の反省を行うべき。 ・国から経営コンサルタントや医師の派遣を受けられる制度があるが、この制度を活用しないといけない。 ・職員一人一人の力ではどうにもならない状況であり、市民の応援が必要である。 	<p>新病院は 300 床といたしますが、一般病床は 220 床に絞っています。回復期リハや緩和ケア、療養病床についても、他病院と張り合うのでなく、地域に必要な病床数として積算しました。</p> <p>まず、地域医療において必要な機能を市民病院として確保することが前提であり、当然、経営改善も大きな課題であると考えています。</p> <p>人件費比率は平成 23 年度末で 69%まで膨らんでいます。これは人件費が増えているのではなく、収益の減少により人件費が占める割合が大きくなっています。人件費比率が 50%を切ればベストだと思いますが、現状では厳しい状況です。</p> <p>人件費比率をよくするためには、医業収益を上げるために医師や看護師を確保しなければなりません。これにより、経営が成り立ち、求められる医療機能を確保できると考えています。</p> <p>市から多額の繰入金をいただいていることは心苦しいと感じております。しかし、適正な繰入の支援は今後もいただきたいと考えております。</p> <p>経営コンサルタントにつきましては、現在、業務委託し、専門的知識を活用して経営改善に取り組んでいます。</p>
2	<p>◆経営形態について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民病院の経営形態を変える勇気を出さないと、新病院を建てる意味がない。 	<p>企業努力が不足していたことは認識しています。また、これが医師や看護師確保の遅れにつながっているとも考えています。</p> <p>病院に人材育成担当理事を配置し、昨年 4 月から各大学や専門学校を訪問し、医師確保等に努めています。</p> <p>また、昨年 10 月に経営企画室が立ち上がり、経営改善に向けた様々な取組みを検討しています。経営企画室を中心に週 1 回、早朝に情報共有と職員育成に関する検討会を行っています。</p> <p>職員全体の意識改革として、職員一人一人が経営意識を持つよう、研修も実施していきます。</p> <p>今まで企業としての努力が足りなかったことを反省し、まず地方公営企業法全部適用で職員意識を改革していくことを考えています。</p>

3	<p>◆病院機能について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢慶友病院との役割分担はどうなるか。 ・療養病床 20 床は少なくないか。 ・伊勢病院は 2 次救急に徹いたらどうか。 ・伊勢病院は地域医療支援病院に指定されていないのはなぜか。 	<p>回復期リハビリテーション病床や療養病床は、役割分担を考慮した上で、地域医療を確保していく考え方の下に病床数を算定しています。</p> <p>伊勢赤十字病院は 3 次救急を担っているため、当院としては 1 次から 2 次救急、軽症から中等症の救急を積極的に受け入れていく方針です。</p> <p>地域医療支援病院は、2 次保健医療圏に 1 病院が基本ですが、松阪市の例から複数指定を受けることができると考え、指定を受ける準備を進めています。しかし、指定条件が近年変更し、24 時間の救急対応が必要になり、医師が減る中で対応が難しく、指定が取れない状況が続いています。将来的には医師を確保し、地域医療支援病院として病院運営していく必要があると考えています。</p>
4	<p>◆建物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨大地震により建物が倒壊する可能性はないのか。 ・どの程度の地震を想定しているのか。 ・14 年前に現病院の耐震診断を行っているが、14 年放置して今さら対策を行うのか。 	<p>病院は災害時こそ市民の命を守る拠点になりますので、災害時でも引き続き医療提供できることが一番大事です。</p> <p>新病院は免震構造を採用し、法律で定められた耐震基準に則った設計を行いますので、安心して診療を受けていただけます。</p> <p>新病院は免震構造で震度 7 に耐えられる想定です。</p> <p>耐震診断の結果では、200 ヶ所の補強が必要であり、補強や設備改修で 50 億円程度必要になります。また、患者がいる中で耐震工事ができるのかどうか検討し、今回新病院を建設することといたしました。</p>

二見公民館

平成 25 年 2 月 19 日 (火)

参加者 27 名 意見者数 3 名 [意見数 3 件]

No	主な意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>◆医師確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新病院での必要な医師数はどれだけか。 ・研修医をどのように確保するのか。 ・大学との連携をどうするのか。 	<p>医師は開院時点で 8 名の増員を予定しています。</p> <p>研修医の確保は、奨学金制度を設け、毎年 2 名募集していきます。今年は内定を 2 名確保しています。魅力的な研修が必要であり、当院指導医の活用の見直しを行います。</p> <p>大学との連携については、研修期間 24 ヶ月のうち、三重大学附属病院で最低 8 ヶ月は高度医療の研修ができるようにしております。診療科によっては、三重大学以外の大学とも連携しており、状況によっては、様々な大学と接触、交渉をしていきます。また、後期研修医には自分が腕を磨きたい医療分野を勉強できる病院への派遣制度も作っていきたいと考えています。</p>
2	<p>◆周産期医療について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的な対応をどうしていくか。 ・妊婦の相談窓口の設置はどうか。 ・是非、職員一人一人が持っている技術を活かせる病院にしてほしい。 	<p>小児科医が常時在籍することが必要であり、今は難しいと考えています。</p> <p>妊婦の相談窓口は需要があれば設置します。助産師の資格を持つ看護師を中学校等へ講師として派遣しており、今後も続けていきます。</p>
3	<p>◆高齢者医療の充実や予防医学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢病院ではどう考えているか。 ・高齢者医療内科を作る予定はあるか。 ・障害が起きた人に対してどうしていくのか。 	<p>生活習慣病とアレルギー対策が重要であると考えています。健康寿命と平均寿命に約 10 年差があり、その差の期間は何らかの介護医療を受ける必要があります。そのことを患者に働きかけ、病気の予防につなげていきます。また、メタボリックシンドロームでありながら通院しない人に働きかけ、治療を受けられる環境を作りたいと考えています。</p> <p>高齢者内科を作る予定はございませんが、病院全体の生活習慣病対策の中で、高齢者内科の機能を確保します。</p> <p>新病院で医療型療養病床 20 床を整備し、その中で高齢者医療を考えています。療養病床を在宅や介護と結び付けてどう連携していくかについては、今後の課題と考えています。</p> <p>障害を持った人に対する医療についても対応してまいります。</p>

小俣図書館

平成 25 年 2 月 20 日 (水)

参加者 18 名 意見者数 4 名 [意見数 4 件]

No	主な意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>◆伊勢市民病院と伊勢赤十字病院があることで、何かあった時でも安心である。新病院で体制を発展させていくということで、自治体病院の経営状況が厳しい中、良い提案だと思っている。後の世代も安心して暮らせる地域をつくって頂きたい。</p>	<p>今後も市民の健康と命を守る使命を果たしていくために努力していきたいと考えております。</p>
2	<p>◆総合診療科の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面で伊勢赤十字病院と違う面を持つていただきたい。 ・伊勢病院は医師や診療科が少なく、応用を利かせる。 ・専門分科せず、総合診療科を設け、総合診療的な機能の病院になるよう配慮してほしい。 	<p>当院も専門分野に分かれていますが、診療科間の垣根が低く、患者にとっては気軽に相談しやすい体制です。そのような体制を今後も充実させていきます。</p> <p>総合診療科については、三重大学病院にもあり、医師の派遣要望を出すなど検討しています。</p>
3	<p>◆健全経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢病院ではどの程度が健全経営であると考えているか。 ・健全経営となる繰入金の目標額はいくらか。 ・平成 38 年度の収入が平成 23 年度の 30% 増の計画であるが、可能なのか。 	<p>一番は地域や市民に求められる医療機能を確保することが重要であり、医師を確保して体制を整備し、患者を増やすことで収益を向上させることが大事です。</p> <p>また、市と協議した上で市からの適正な繰入金の中で病院経営をできることが、持続可能な医療機能を確保していくことにつながります。</p> <p>収入については、来年度から医療ニーズに合わせて、回復期リハビリテーションや緩和ケア病棟を設置し、医師、看護師の確保、患者の増加に努め、収入を上げていく計画であり、それに向けて努力していきます。</p>
4	<p>◆現病院隣接地に建設することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現病院の場所は地震時に伊勢で一番揺れが強くなる場所である。 ・地震時にどれだけ揺れるかを大学等の専門家にシミュレーションしてもらい、検討すべきである。 ・建設候補地のシルト層は状態が悪く、横揺れに対応できる程度に建物強度を上げる必要がある。 ・標高 6 m の現病院では、津波が来た時に危険であり、津波で水が浸入した場合、水はけが悪い地域である。 	<p>地盤について、現在地の地下 25m 程度は砂と粘土の中間の粒子を持ったシルト層です。この層に対して、建築工事においては杭で建物を支えることが基本的な考え方で一番安価な工法だと考えています。また、地震対策として免震工法という建物の揺れを免震装置で吸収することを考えています。</p> <p>地質調査はこれからになりますが、東日本大震災時、軟弱地盤上に建っていた病院が十分耐えられた事例があります。また、関東では関東ローム層という軟弱地盤が地下 25m 以上深くにありますが、そこでも現在の技術で地震に耐えることができます。建築設計の段階では地震に</p>

		<p>対する応力を考慮して検討していくたいと考えています。</p> <p>津波に関しては、ハザードマップから現病院の地域は津波が来ないという予測になっています。</p>
--	--	--